

◎令和3年度業務委託 料金徴収員基本配置人員算定基準

【算出式】

- ①ブース内総労働必要時間の算出
基本レーン [基本人員 × 営業時間 × 営業日数] + 繁忙時レーン開放時間…… A
- ②営業開始・終了に伴う必要労働時間の算出
[基本人員 × (営業開始必要時間 + 営業終了必要時間) × 営業日数] …… B
- ③総労働必要時間の算出
A + B = C
- ④総必要人工数の算出日数
C ÷ 1人当たり勤務時間 / 日…… D
- ⑤必要人員数の算出
D ÷ 1人当たり年間勤務日数

【算出内訳】

- ①基本人員 2名 (各方向別の車両から徴収が可能な最低基本人員)
ただし箱根スカイラインは、平日の平均通行台数が280台/日以下の月の平日に限り、1名 (両方向の車両から徴収)

②繁忙時レーン開放時間の算出

- (1) 伊豆中央道・修善寺道路・浜名湖新橋—令和1年4月1日～令和2年3月31日間の時間別方向別交通量から曜日別 (平日・土曜・日祝日別)の時間別方向別台数を算出する。
・伊豆SL・箱根SL—平成30年9月1日～令和1年8月31日の時間別方向別交通量から曜日別 (平日・土曜・日祝日別)の時間別方向別台数を算出する。
- (2) 上記 (1) の時間別方向別台数を各曜日別日数で除すことで、平均時間別方向別台数を算出する。
- (3) 上記 (2) の平均時間別方向別台数にて、繁忙時に基本レーンでは対応できないため予備レーンの開放を必要とする時間数を求める。
この基準となる台数は日本道路公団設計要領「車線数、サービス時間及び平均待台数と処理可能台数」におけるピーク時台数を使用する。

道路別	伊豆中央道	修善寺道路	伊豆スカイライン		浜名湖新橋 箱根スカイライン
			進入	退出	
サービス・タイム	8秒	8秒	18秒	10秒	8秒
1レーン当たり ピーク時台数	—	230台 ^{*1}	100台 ^{*1}	270台 ^{*2}	340台 ^{*2}
2レーン当たり ピーク時台数	640台 ^{*1}	—	—	—	—

注) ^{*1}については平均待台数が1台の場合の台数を使用した。
注) ^{*2}については平均待台数が3台の場合の台数を使用した。

- (4) 令和4～6年度を曜日別に分類し、この日数に上記 (3) で求めた時間数を乗ずることで、繁忙時レーン開放時間を算出する。

③1人当たりブース勤務時間

- (1) 料金徴収員は、1勤務8時間45分の拘束時間のうち、45分の休憩時間を除いた8時間ブースにて徴収を行うものとして算定。

④営業開始及び終了必要時間

営業開始時及び終了時に伴い、その準備 (つり銭の準備・運搬、收受機・通行券のセット等) に各15分、計30分必要であるものとして算定。
(ただし、東芝テック製のPOS型收受機を使用している道路は、営業終了時のデータ送信に追加が必要となる15分を加算する。)

⑤年間勤務日数

年度	年間日数	年間休日日数			年間 勤務日数
		公休日	年休等	計	
4年度	365	108	10	118	247
5年度	366	110	10	120	246

公休日	4年度	5年度
土曜日	52日	53日
日曜日	52日	53日
12/29～ 1/3の平日	4日	4日

⑥伊豆中央道・修善寺道路 (令和5年度)

土日祝 及び 繁忙期	4/1～10/2の土日	60日
	7/21～8/31の平日	29日
	8/13～8/15の平日	2日
	GWの平日	2日
	合計	93日